第3号　2012年2月15日発行

小麦通信

発行：NPO法人　北海道食の自給ネットワーク
〒065－0015　札幌市東区北15条東18丁目2－17　(有)ワードエム内
TEL：090-2818-5502　FAX：011－789－8890

いのちを選ぼう

講演『TPP－私たちは知る権利がある。～政府が語れないその本質に迫る～』より

メノビレッジ 長沼　荒谷 明子

1月15日、道新ホール(札幌市)においてブルースター・ニーン、キャサリン・ニーン夫妻によるTPPの講演会を予定していました。しかし、ブルースター氏の体調不良により急遽来日を断念。当日は会場で夫妻からの8分間にわたるビデオメッセージを放映し、その後ブルースター氏による講演原稿をエップ・レイモンド氏が代読、荒谷明子さんが通訳するという形で講演会は開催されました。

TPPに参加しなければ、日本は、先進国から脱落してしまうのか。はたまた、TPPは、低迷する日本経済に風穴を開ける特効薬なのか。TPPをめぐる論争では、いつもそんな言葉を目にします。けれども、いま私たちは、TPPに参加するべきか否かを議論をする前に、もっともっと深いところまで、こころの中に降りていって、いのちに向き合いながら、ほんとうに私たちが大切にしたいものは何なのか、それを大切にできる暮らしは、社会は、経済はどんなものなのかを話し合う作業をするときであるのだと、感じています。

私たちは、1月15日、体調不良のため急遽いらっしゃることが出来なくなった、ブルースター・ニーンさん、キャサリン・ニーンさんご夫妻のメッセージに、当日会場へ足を運んでくださった400人近くの方々と耳を傾けました。TPPの本質に迫る、と銘打った講演会でありましたが、ニーンさんのお話しは、TPPを飛び越えて、人の暮らしの本質に迫り、いのちとは、しあわせとは、と繰り返しわたしたちに問いかけました。現代の貿易とは、競争だ。競争とは、他者から奪うこと。奪うことでほんとうに私たちはしあわせになれるのか。仮にしあわせだというのなら、そのしあわせの陰に必ず存在する競争に敗れた人たちをどうするのだ。その向かう先は闇ではないか。闇ではなく、いのちを選びなさい、と。

そもそもなぜ、私たちは、経済は発展しなければならない、そのために日本は開国しなければならないと思うのでしょうか。そして、開国という意味は、グローバル化、つまり、より自由に貿易できるようにすることだと、あたりまえのように思うのでしょうか。そこに疑問を持たないのは、盲目的な信仰と同じだと、ニーンさんはいいます。この信仰は、信じても信じても、決して満ち足りた平安を感じることの出来ないもの。駆り立てられるように走り続けるほど、ますます不安と怖れは膨らんでいく。けれども、引き返すことはもっと恐ろしく、立ち止まることすら出来ないと思い込んでいる。冒頭に記した議論は、このような思いから生まれてくるのだと思います。

「私たちが今日ここに集まったのは、どんな道を歩むのかを私たち自身が選択できるのだということを共に学ぶためです」と、ニーンさんはおっしゃいました。怖れという名の燃料を燃やしながら発車する、行く先の分からないミステリーバスに乗り遅れるまいと急ぐ前に、正しい情報を得て、私たち自身で行き先を決められるのですよ、と促されてはじめて目が覚まされたように感じました。他の国々に負けじと経済を発展させるために、TPPに参加しようとする政府のやり方は、次々に現れる暗礁に船をぶつけないように舵を取りながら暗い海を進むようなものだけれど、私たちには、陸地つまり故郷に戻る選択肢もあったのだと。ノーベル平和賞を受けた時、人々から、「私たちは世界平和のために何をしたらいいですか」と尋ねられたマザー・テレサが答えた言葉が、「家に帰ってご家族を大切にしてあげてください」だったことを思い出していました。

けれども、外貨を稼ぐこと、発展することに価値を置くことに慣れてしまった私たちは、方向転換して家に帰れといわれても、簡単にうなずくことができません。多くの人は、そんなことは理想論だといって、切り捨てようとするでしょう。何故か。家に帰れば、これまでのように、自分の力で富を築くやり方は受け入れられなくなり、助け助けられる関係の中にのみ、暮らしていける道が開かれるからではないかと思います。その生き方に身をゆだねるためには、自分や相手、そして社会を信頼する気持ちが必要です。信頼し合い、思いやりを持って互いを大切にすることで、ともに生きることが出来る経済を、ニーンさんは、「地域の経済」と呼び、TPPを進めようとしている「工業的な経済」との違いを明確にしてくださいました。

「工業的な経済」を選んでいるかぎり、私たちは、カーギルやモンサント社のような超巨大多国籍企業と競争しなければなりません。貿易協定を結ぶのは確かに国と国ですが、実際に主導権を握っているのは、このような多国籍企業だといいます。TPPによって企業は、農産物や工業製品だけでなく、金融、通信、保険、投資、労働、知的財産、環境などあらゆる分野を自由貿易の対象として、貿易を進める上で障害となる関税を撤廃し、貿易規制や安全基準を参加国間で統一しようと政府に働きかけています。例えば、米国は遺伝子組み換え食品が安全であることを前提としているので、表示は必要ないとしています。1,100を超えるバイオテクノロジー企業で構成されているバイオという団体は、バイオテクノロジー技術による産物をどんどん貿易しやすくするために、各国の遺伝子組み換え食品の表示基準を米国のものに統一、つまり、表示をなくすことを訴え、そのために多額の資金を投入しています。このように、海外から参入しようとする企業の目的は、人々の健康や暮らしを守ることよりも、貿易によって自らの利益を追求することです。さらに、国はそれらの企業を国民と同じく平等に扱い、その権利を保護する義務を持つというのです。企業と国の関係を、キャサリンさんは、カウチでくつろぐ男（企業）にスリッパを運んでくる忠実な犬（国）のイラストで見せてくださいました。具体的には、学校給食に地元の業者から優先的に仕入れをするなら、不公平だとして、自治体が企業に訴えられる事態が起こりかねないということです。しかも、力を持った企業は、価格競争に強いため、地元のどの業者も到底太刀打ちできず、駆逐されてしまい、挙げ句の果てに、企業はやっぱり儲からないからと撤退してしまうことも十分考えられます。地域の重大事なのに、その決定は、市民も自治体も口を挟む余地のないまま、企業の会議室で決められることになるのです。

「地域の経済」の出発点は、目の前にいる大切な人です。その人を、その人のいのちを大事にすること。その人が食べるから、使うから、良いものを手渡したいと願う気持ち。孫が食べるから、学校給食に使う野菜に、農薬を振らないで育てる農家のおじいちゃんがいます。地球の向こう側にいる人たちを思いやることは難しいことです。また、今自分が払ったお金も、地球の向こう側へ行ってしまえば、戻ってくる可能性は小さいけれど、地元の人の手に渡れば、また自分に戻ってくる可能性は十分あります。ある調査によると、地元で売り買いした場合、そのお金は、平均6回も循環してから地元を離れるのだそうです。大儲けは出来なくても、必ず暮らしていける計算です。

「工業的な経済」の考え方から「地域の経済」へと価値観を転換するために、私たちは、技術も知識も財力も、与えてはじめて意味があるのだと、気づけるような経験が必要です。研究者も商売人もサービス業者も農家などのものつくりも、市場原理の中のように敵対するのではなく、それぞれが持てるものを持ち寄り、地域の中の必要とする人に差し出すとき、互いを喜びあい、自分の存在を確認し、信頼が育っていくと思うからです。思いやり合う関係が結べる範囲で、信頼に基づく「地域の経済」が築けたならば、それは、TPPを押し進めようとする力に対抗する最も有効な方法だと、ニーンさんは断言なさいました。らくだが針の穴を通れないように、巨大多国籍企業は、大量生産されたものを動かすことは得意でも、相手を思いやって良いものを作る地域の経済の中には、どうがんばっても参入することは出来ないということです。

私たちは、喜び勇んで家へ帰り、心を込めて、まず地域の人が食べるものを育て、余ったものがあれば外へ売るというやり方をしてみよう。それとは対極にあるTPPを前にしながら、私は今、大切な人たちと、いのちを選ぶ道を歩こうと思っています。

生産者の想い

岩見沢市栗沢町　農業　庭瀬 義裕・綾子（岐阜グループ）

実を言うと 私はパンがあまり好きではありませんでした。

うどん等の麺類は大変好物なのですけれど、パンは学校給食で慣れてはいるものの、もともと米農家というのもあるのでしょうか、なんとなく敬遠しがちでした。炊いて直ぐ味わえるお米とは違って、小麦は私のなかでスムーズに製品には結びつかなかったのかもしれません。そんなこともあってか私が農業経営を始めて早 25 年。当初から麦作りをしていますが、その頃の小麦はあくまで転作作物のひとつで面積を埋めるものにすぎず、品質も収量も今とは比べ物にはなりませんでした。

けれども先日参加させていただいた小麦トラスト10年パーティーで食べたパンのおいしかったこと。小麦というひとつの農産物を中心に生産者から消費者まで関連するたくさんの方々の思いがつまった味であり、生産者にとっては小麦を喜んで食べいただける、すばらしいひとときでした。

世の中のグローバル化が進み、多様な農産物が氾濫する現在、私たち農業者も農産物に“安心”とか“顔の見える”とか付加価値をつけて買っていただく努力をしています。が、小麦トラストは小麦を対象にした相互信託。 生産者にとっては、笑顔で食べ支えていただけることで安心感や作り続ける希望を与えていただきました。

また農産物は工業製品と違い時間をかけて、水や暖かみといった地の恵みを受けて育ちます。実際に小麦畑を見ていただきながら交流したことも私たちにとっては大きな成果でした。農業は地に根付いたもの。小麦トラストは活動を終結しますが雪が解ければまた小麦はいっせいに芽吹きます。

今年も見に来てくださいね 小麦畑で待っています。もちろん パンは大好きになりました。

メーカーさん紹介

最終年はいつもの取材とは違い、
メーカーさんご自身にトラストへの想いを書いていただきました。

１０年間の思い・思い出、そしてこれから

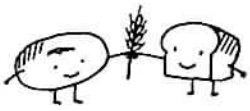
(株)フタバ製麺 代表取締役　仲田 隆彦（ 留萌市 ）

私は職業柄、小麦の生産から加工、流通、消費までの関係者が一丸となり、顔の見える商品づくり・販売する取り組みが出来る方法などないものかと、以前から思っていました。そのような時、大熊さんや蓑島さんに出会い、小麦トラストの取り組みについて話を聞き、参画してきた思いは皆、共通だと思っています。小麦に関する、生産～加工～流通～消費までの一連の取り組みは、この小麦トラストの取り組みにより、明確に伝わったのではないでしょうか。その役割は10年間という節目で終えるわけですが、この取り組みによって、生産段階は元より、加工・流通・消費段階での関係者の認識は確実に変化しております。この10年間の経験は、私にとって色々な事を学ばせて頂きました。小麦トラストに参加して、普段なかなか接点があるようでない生産者の思い等も聞け、どんなものを求めているか小麦トラストに参加している消費者の貴重な意見等を得られた事は非常にプラスになりました。

思い出もいっぱいあります。大熊さん・蓑島さんが弊社工場を訪問した際に手延べ麺の体験なんかもしていただいた事は、未だに目に焼き付いております。私なんかはパンづくりの講習会に参加したり、美唄ツアーのうどんづくりに家族全員で参加し、講師までして、私にとってもちろん、特に子供たちにとっても計り知れない貴重な経験をさせて頂きました。

現在、北海道産の小麦を取り巻く環境は非常に厳しい時代に突入してきておりますが、何とか乗り切り、頑張って行かなければならないと思っています。小麦トラストの取り組みは10年で終了いたしますが、これを契機に、新たな商品開発を含め、これからが本格的なスタートと思っております。関係者の連携を密にし、お互いの見解を尊重し合いながら、この10年間で出会えた人々に感謝し、また更なるより多くの関係者の皆様のご支援と御協力を、宜しくお願い申し上げます。

～自称パン好き麺屋より～



ベーカリー パオン　代表　西本 智春　（ 札幌市 ）

北海道食の自給ネットワーク小麦トラストとの出会いは2006年。ベーカリー パオンがオープンして1年満たない頃でした。

「生産者・消費者双方で北海道の小麦を作り支え、食べ支えよう！」というコンセプトで活動されているお話を聞き、北海道産小麦粉でパンやお菓子をつくっている店として「ぜひっ！」と参加させていただきました。生産者さん、製粉会社さんの気持ちが込められた特別な小麦粉でパンをつくり、打ち合わせや試食の際には親しみやすいスタッフの方々からお話を聞いたり・アイディアをもらったり、消費者さんのアンケートを見て学んだり・喜んだり・悩んだり、他のメーカーさんの小麦製品を味わい、小麦の素晴らしさに感動したり・・・。『小麦粉』を通じて多くの方と繋がっている事を知り、嬉しく思いました。

《小麦通信》では畑の記事を小麦が出来るのを楽しみにしながら読みました。また農業や北海道の厳しい環境なども知ることができました。小麦トラストの活動を通じて貴重な体験をさせていただきました。今後も北海道や『食』に関するたくさんの課題がありそうです。些細な事でも出来ることを考え、続けていきたいと思います。

小さな店の為、トラストのイベント等に参加出来なかったことが残念でしたが、これからも今までの事を大切にしながら、北海道の素晴らしさをパンで表現していきたいと思っています。これまで支えてくださった皆様に感謝いたします。ありがとうございました！

小麦トラストアンケート　～10年間トラスト活動に参加して～

今年度で終了の小麦トラスト。長年参加してくださった会員の皆さんに①これまでに印象的な製品、思い出深い製品 ②小麦トラストに参加してきた感想について、お聞きしました。

☆札幌市　佐々木厚子さん ①塩ラーメン(ｻｯﾎﾟﾛ麺匠)…夫の一言「うまい。いける!」。私「そうでしょ」と自慢げに。素敵な箱入りのお菓子(ﾃｨﾝｶｰﾍﾞﾙ)…ひとつひとつ可愛いラッピングは参考にさせてもらいました。もちろん製品は最高に満足。②2001 年のモニターから参加していますが、最後の年の「種まき～収穫」企画は楽しい思い出。生産者の大変さを身をもって感じました。製品を堪能し、小麦を更に理解できたようです。『限定！スペシャル 20??年』なんていかがでしょう？

☆札幌市　井上敬一さん・久子さん ①オーバーナイトの山食(ｼﾛｸﾏ北海食品)・・・自分でもパンを作りますが名前の overnight に興味を持ちました。素朴で本物のパンの味がします。北海道産小麦を存分に味わいました。②10 年間、12 月のスタートをとても楽しみに待っていました。毎回まるで玉手箱を開くようで・・・来年から寂しいわ。

☆札幌市　緒方 聡さん・かな子さん ①塩ラーメン(ｻｯﾎﾟﾛ麺匠)・・・市販のスープとは違い、本物の味で家族にも人気ですシュトーレン(ｼﾛｸﾏ北海食品)、生パスタ(三島製麺所)、ピザ(ｼﾛｸﾏ北海食品)。みんな美味しかったですね。②終わってしまうのは残念ですね。トラストは楽しかった。メーカーさんの住所を頼りに買いに行きましたが、見つけられませんでした。

☆札幌市　椎名宏智さん・純さん・咲さん ①マドレーヌ！(ﾃｨﾝｶｰﾍﾞﾙ)・・・娘さんの咲ちゃんの即答。ラーメン(ｻｯﾎﾟﾛ麺匠)・・・麺が美味しい。②トラストメーカーの商品をスーパーの棚で見かけると親しみが湧きます。

☆札幌市　マット和子さん ①塩ラーメン(ｻｯﾎﾟﾛ麺匠)・・・トラストのラーメンはマット家の子ども達の人気製品です。ピザクラスト(ｼﾛｸﾏ北海食品)・・・ピザソースと楽しみなセットでした。ソースは最後の年に入っていなくて残念でした。②道産品を意識して購入していたが、作り手や中間の製粉会社を知る事が出来た事が良かった。ファームレターや小麦通信で生産者の苦労や大変さを知りました。数年前から行事に参加出来なかった事やトラスト終了は本当に残念です。

☆帯広市　谷内恵利華さん ①手延べうどん&生うどん(ﾌﾀﾊﾞ製麺)・・・のど越し、つるつる感がとにかく大好き。(ｷﾞﾌﾄの手延べうどんは自分用にいつも注文します)オーバーナイトの山食(ｼﾛｸﾏ北海食品)やシンプルなパンがいつも美味しくて好きです。②2 種類の小麦の食べ比べパン（ハルユタカとキタノカオリ）は、トラストならではの楽しい企画でした。

☆札幌市　高田康一さん・弘子さん ①オーバーナイトの山食(ｼﾛｸﾏ北海食品)・・・とにかく美味しかった。手延べそうめん・うどん(ﾌﾀﾊﾞ製麺)・・・中々手に入らず、毎年届くのが楽しみでした。②10 年間お世話になりました。そしてお疲れ様でした。

★トラストへのご意見ご感想をお寄せください。 FAX011-789－8890 Eメールinfo@jikyuu. net

（イラスト：菊地 よう子）